

三郎山論集2 (上田女子短期大学 日本語教育研究会・国語研究倶楽部共同機関誌) 1995.3

ことばのエッセイ

方言の不思議

横山 明美

私の町(新潟県北蒲原郡聖籠町)の方言に「かがっぺ」というのがあります。どういう意味かご存じですか? 「かがっぺい」とも使うことがあります。老人から、四十代半ば・後半ぐらいの年齢層で、この語を使用する人が結構います。若い人達は、「まぶしい」と共通語で話します。

“方言”は、誰が最初に作ったのでしょうか。あつという間に広がって、一つの町の方言になってしまう。そのパワーが、私には不思議に思えます。使いやすいからすぐに広まるのでしょうか。

それにしても、方言とは不思議なものです。「かがっぺ」以外にも、町の方言には、「たがく(=持つ)」や「しよし(=恥ずかしい)」等があります。が、どうして、恥ずかしいが「しよし」なのでしょう。「しよし」という言葉の由来を知っていて、「しよし」という方言を使用している人がいるのかも謎です。

「かがっぺ」の由来は、何となく、太陽が照り輝いて、というところから採ったのかもしれない、と一人で勝手に解釈したりしています。

このほか、人と会って別れるときに「まずまず」といったりすることがあります。(私の祖父母が使います。)これもまた、私一人の解釈なのですが、「ひとまずさようなら、またね。」というところから、採ったのではないかしら? と思っています。

どうして、その方言が生まれたのか、その理由や由来を知りたい、と思うようになったのは、この倶楽部に入ったからに違いありません。(よこやま あけみ 国文科2年)

自分らしいことば

神田 千代

私は、文章を書くことが大変苦手である。自分の表現したいことが、うまく表現できないからだ。

短大では、いろいろなレポートがあり、2年間でたくさんの論文・感想文などを書いてきた。今思うと、自分でもよく書いてきたなあと、感心してしまうほどだ。その時は単位を取得するために、あまりない頭脳をせっせと働かせて書いてきた。スラスラと書けたものはないように思う。みんな苦労して書いた。一文を、一行を書くことが辛く、やっと書き上げたものがいくつも思い出される。今も、この文章を苦労して書いているところだ。

他人の文章を読んで、いつも感じることもある。それは、「どうしてこのようなものが書けるのか。」ということだ。自分には思いつかない表現・言葉・題材。羨ましいと思うし、自分はまだ年齢に合った文章が書けていないと思う。まだまだ未熟である。

自分が何を表現したいのか。表現の仕方・ボキャブラリーの少なさ。何度も同じ言葉を使ってしまうこと。あいまいな表現。自分の文章の悪いところが、次から次へと出てきてしまう。そういうものは、自分で読んでもつまらない。他人なら一層つまらないであろう。

自分が書いたものは、恥ずかしい。しかし、こんなに苦労して書いてきたものを、大切にしていないのではないかと、最近思うようになった。これも悪いところの一つであった。自分の書いたものを好き嫌いとは関係なく、大切にできたら、今より文章を書くことが上達するかもしれない。

そして、自分が表現したいことを自分らしいことばで表現することができたなら、母語である日本語をもっと好きになれそうな気がする。(かんだ ちよ 国文科2年)